

TAMAが期待される役割

平成20年1月21日
TAMA協会設立10周年記念事業
クラスターシンポジウム in TAMAにおいて
京都大学経済研究所附属
先端政策分析研究センター
児玉俊洋

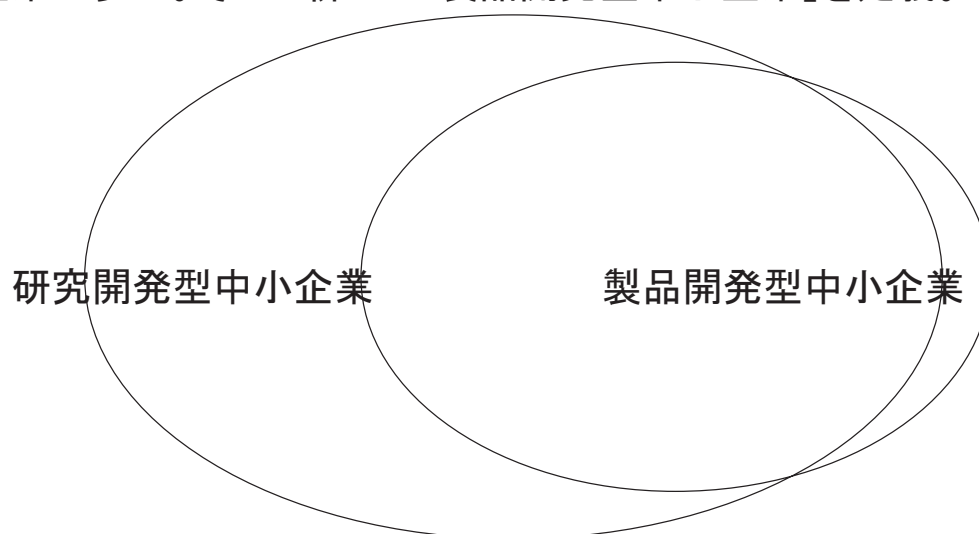
構成

1. TAMAに見出された新たな中小企業類型
2. TAMAに見出された産業集積の新たな意義
3. TAMAが期待される役割

1

開発力のある中小企業の存在

- 研究開発をしているかどうかだけでは、市場化まで含めた開発力(技術革新力)のある企業かどうかわからない。
- TAMAには市場ニーズを把握した上で製品を開発している中小企業が多い。そこで新たに「製品開発型中小企業」を定義。



2

企業類型の定義

- 製品開発型中小企業
 - 定義: 製造業において、設計能力があり、かつ、自社製品の売上げがある中小企業。
 - 自社製品: 自社の企画、設計による製品。部品を含む。他社ブランド用の供給製品を含む。
 - 設計能力と自社製品の売上げの有無に注目するのは、市場ニーズを把握し、把握した市場ニーズに基づいて製品を企画、開発できる力があるかどうかを外形標準的に見極める尺度として有効だから。
- 基盤技術型中小企業
 - 定義: 切削・研削・研磨、鋳造・鍛造、プレス、メッキ・表面処理、部品組立、金型製作等、製造業の基盤的な加工を担う中小企業。
 - 製品開発型中小企業にとって製造の基盤を支えるために必要不可欠な存在。
- 製品開発型に分類されない研究開発型中小企業

3

製品開発型中小企業の特徴

- 製品開発型中小企業の特徴(2003年アンケート調査結果より)
 - 市場ニーズ把握力
 - 顧客企業数の多さから考察
 - 研究開発力の高さ
 - 投入指標: 対売上高研究開発費比率
 - 成果指標: 特許出願件数、新製品件数、工程・加工法関連新技術件数
 - 産学連携、企業間連携
 - 産学連携に積極的
 - 産学連携、企業間連携を有効活用
 - 基盤技術型中小企業との生産分業ネットワーク
 - 大企業を含む既存企業からのスピンオフ創業が多い
- 上記調査分析結果の代表的な掲載文献
 - 児玉俊洋(2006)「産業クラスター形成における製品開発型中小企業の役割—TAMA(技術先進首都圏地域)に関する実証分析に基づいて」、後藤晃・児玉俊洋編(2006)『日本のイノベーション・システム—日本経済復活の基盤構築に向けて』東京大学出版会、第4章。
 - 他に経済産業研究所(RIETI)ウェブ[http://www.rieti.go.jp/](http://www.rieti.go.jp/jp/) 掲載論文等あり(<http://www.rieti.go.jp/users/cluster-seminar/link.html> が便利) ⁴

TAMA:

Technology Advanced Metropolitan Area

(技術先進首都圏地域)

TAMA産業集積の構成要素

- ・大企業の有力工場と開発拠点
- ・理工系大学
- ・製品開発型中小企業
- ・基盤技術型中小企業

1996～97年関東通産局による調査

1997～98年準備会の活動

1998年TAMA協会発足

(「TAMA産業活性化協議会」→2001年「社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA産業活性化協会)」に改組)



Source: Created by using Map Cartography Design Institute & Design Exchange Co. Ltd. MAPRO JAPAN, and data from Kantou Bureau of METI and TAMA Industrial Activation Council

7

TAMAに見出された産業集積の新たな意義

- ・ 地域産業政策の変遷
 - 1960年代 –1990年代前半
 - ・ 大都市圏から地方圏への工場の再配置
 - ・ 1980年代のテクノポリス政策もこの延長線上
 - 1990年代後半以降
 - ・ 産業空洞化を是正するために大都市圏を含めた産業の再活性化にシフト→産業集積が政策対象に浮上
 - ・ 産業集積活性化法、産業クラスター計画
- ・ 産業集積が注目される意義
 - 従来の産業集積の意義
 - ・ 基盤技術を担う中小企業間の工程間分業ネットワーク
 - ・ 1997年産業集積活性化法に結実
 - TAMAにおける産業集積の意義
 - ・ 産業集積内の異なる技術、知識の連携から新技術・新製品を生み出す可能性
 - ・ 2001年産業クラスター計画に発展(他地域の事例も踏まえている)

8

日本の政策における産業クラスター概念

- 産業クラスターの定義
 - 産業集積の構成主体(企業、大学・研究機関等)間に新技術・新製品開発とその事業化のための連携からなるネットワークが発達している状態
- 定義の要素と特徴
 - 産業集積の存在
 - ネットワークの形成
 - 単なる生産分業ネットワーク(受発注取引関係のネットワーク)ではない
 - イノベーションネットワーク:新技術・新製品・新事業開発のための異なる技術、知識の連携からなるネットワーク
 - その中核は産学連携と企業間連携(開発目的)
 - 特定産業分野性は必須ではない:多様な技術や知識の連携を目指す
- Cf. マイケル・ポーターによるクラスター概念
 - ポーターによるクラスターの定義
 - 特定分野における関連企業、専門性の高い供給業者、サービス提供者、関連業界に属する企業、関連機関(大学、規格団体、業界団体など)が地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態
 - 特徴:特定産業分野の生産分業ネットワーク
 - ただし、緊密な生産分業ネットワークがイノベーションに貢献する

9

TAMAが期待される役割

- 産業クラスター計画の中核モデルとして産業クラスターの形成に成功すること
- TAMA評価委員会の評価のポイント
 - これまでの活動実績については高く評価
 - 課題1:世界的なクラスター形成に向けて、質的、量的な実績の拡大を。このため大企業の本格的な参画促進など。
 - 課題2:基本的性格は多様な先端産業のイノベーションを支援する産業のクラスター(特定産業への絞り込みではない)。ただし、知名度、ブランド力の向上に向けてサブクラスター活動の併用を。
 - 課題3:継続的發展を可能とする組織、ガバナンス、財源構成の構築。
- 日本の経済産業構造改革のパイオニアとしての期待
 - 大企業のオープンイノベーションと開発力ある中小企業とのネットワークの実現。
 - 大企業に偏在する人材の開発力ある中小企業へのシフト。豊かな個性を発揮できる経済社会の実現。
 - 地球環境配慮型産業構造構築の先導役。

10